

韓国 GAP農場急拡大、激化する国際競争が背景

韓国でGAPが急速に普及している。韓国政府ではGAP認証取得した農産物の比率を、2013年までに全体の10%までに引き上げる計画を立てている。輸出向けから普及が始まったGAP認証農産物は、国内市場にも広がっている。その背景と現状を現地の最新情報をもとにレポートする。

最初に普及したのは2003年からで、漢方薬の原料を栽培する農場で導入が始まった。WTO（世界保険機構）で薬用植物に関するガイドラインが同年に定められ、漢方薬の輸出入に関し、GAPの認証取得を基準のひとつにすることが話し合われたことがきっかけとなった。

04年からは輸出向けの農産物を作る農場でGAPがスタート。同年に韓国とのFTAを発効したチリがすでにGAPを確立していたことも大きく影響した。政府機関である農産物品質管理院は1・9億ウォン（1ウォン＝約0・12円）の予算を投入し、輸出用のパブリカ、シシトウ、キウリなどの栽培農家約350戸にGAP導入を働きかけた。

こうした動きにより韓国全体にGAPが広まり、03年に

わずか9農場だった認証取得農場が、05年には965農場、06年は約3500農場と急速に増えている。

農林部もGAPに力を入れており、06年には68億ウォンを投入し、審査員の養成や施設を整備するための費用に使われた。

優秀農産物管理制度

韓国版GAPは「優秀農産物管理制度」ともいわれている。土壌、水質、農薬、肥料の適正管理および収穫後の適正管理を目的とする「優秀農産物管理基準」が110項目（うち、必須が76項目、推奨が34項目）あるほか、生産履歴の記帳・管理が義務づけられている。

さらに、農産物品質管理院が定める「優秀農産物管理施設」で処理されたものに限って、GAP認証取得商品として流通できるようになっている。この点は日本とは異なる点だろう。現在、優秀農産物管理施設として指定を受けているのは、野菜の選果場、コマの場合にはフリスセンターが多いが、選果施設持つ農業法人も認定が受けられる。07年11月末時点で、300カ所が指定されている。

GAPの認証が取得できる対象品目は薬用植物（29品目）、野菜（28品目）、果物（14品目）、コマなどの穀物（12品目）、キノコ類（9品目）、特用作物（コマ、お茶など4品目）のあわせて96品目となっている。認証機関はすべて民間で、大手量販店、農協中央会、韓国生薬協会、大学機関などが登録されている。管理基準は農村振興庁が作成したものに一本化されている。認証取得すればコマ

の使用が許可される。韓国版GAPが、日本と大きく異なる点は「優秀農産物管理制度」という名称からも想像できるように、「適正な農場管理をするための仕組み」というより「安全性に配慮し、かつ優れた農産物」に与えられる認証として位置づけられている点だ。

ただし、農産物品質管理院のホームページをみると、

「GAPは生産から収穫、包装に至るまでの過程で、農薬、重金属、微生物など農産物に与えるのが危害要因を総合的に管理する制度で、農産物の安全性確保および国産農産物の競争力強化に役立っている」とあり、これを見る限り、農場管理の仕組みであることが理解できる。一方、同じホームページに「GAPに関する政府の役割は、認証品に対する



(上) 韓国版GAPのロゴマーク (下) 認証済みの有機野菜。韓国では輸入農産物との差別化を図るため、新環境農産物の認証を受ける農場が増えている。

世界70カ国の約5万農場が認証を取得するまで成長したユーレップGAP。農場管理における事実上の世界スタンダードになっている。我が国では日本版GAP (JGAP) の普及が始まったばかり。本誌では、農場の経営管理手法そして国際競争に生き残るための規範として、GAPに注目。世界の動き、日本での進展を毎月報告する。レポートはジャーナリストの青山浩子氏。



Eマート、ロッセマートなど大手量販店ではGAP商品を相次いで取り扱い始めた。

る広報を積極的に行ない、GAP認証品の消費拡大と販路確保に努力すること」とある。おそらく、GAPとか農場管理という言い方が消費者にわかりづらいため、「優秀」という名前をつけることで、消費者の認知度を高めようという狙いがあったのではないかと思われる。

では、実際の消費者の反応、さらに生産現場での反応はどうだろうか？ GAP認証取得農場が増え、農産物の数量

がまとまってきた06年あたりから店頭には並び始めたが、消費者の反応はまだ高いとはいえないようだ。ここに至って韓国各地でGAPに関するシンポジウムが開催されている。その模様がウェブでも紹介されているが、認証を取得した農家から「消費者の認知度が低い」「お金をかけて認証を取得したが、価格や販路拡大などのメリットを感じられない」といった声が多く上がっている。

一方で好意的な意見もある。韓国最大の量販店「Eマート」ではGAP商品を06年から取り扱っているが、バイヤーは「消費者に好評で、売上げも伸びている」とコメントしている。「有機、無農薬農産物には認証制度があるが、大半の消費者が求める一般の農産物は安全なのかどうかを判断する基準がなかった。GAPによって一般の農産物への信頼感が高まったようだ」と話している。

ところで、「優秀農産物」という名称のために生産現場では混乱も生じている。韓国では有機農産物、無農薬農産物、減農薬農産物を「親環境農産物」と称し、認証制度もある。親環境農産物の認証を受けた農家の中には、GAPの認証を取得した農家も多い。「要求事項が似ているのに、審査費用(GAPは5万ウォン、親環境農産物は3万ウォン)を重複してとられるのはおかしい」など不満も出ている。

そうした事態を收拾しようと、農林部は「親環境農産物認証とGAP認証を統合し、有機農産物認証、無農薬農産物認証、GAP認証の3種類に統合していく計画」と打ち出している。こうなると、GAPは減農薬栽培農産物という「商品」への認証制度になり、本来の目的とずれる恐れがある。

890億ウォンのGAP予算

しばらくはGAPの位置づけをめぐって議論が繰り返されるだろうが、GAPを普及させるという政府の基本姿勢は変わっていない。GAP普及のために08年には今までより多い890億ウォンの予算を投入し、GAPの定着と普及に対して支援をしていく計画だ。これにより現在、全体の0.3%といわれるGAP認証を取得した農産物の比率を2013年までに10%まで引き上げるつもりだといっている。

中国やチリからの輸入農産物が増え、07年には米国とのFTAも締結した韓国。攻めのみならず守りの手段としてGAPに力をいれている様子が読み取れる。



GAP全国会議2007 in青森開催記念 GAPで実現! 顧客から信頼される農場管理

本誌125号GAP特集の別刷。農場管理の世界基準として日本政府も4月、全国2000産地での導入を求める施策を発表。本誌では先駆けて、世界のGAP動向、日本のGAP取得事例、JGAP取得のノウハウ、日本版GAP先導者の座談会を掲載。

- 定価500円 ※送料100円
- 定期購読者 送料サービス
- 定期購読者限定・大口割引
- ・5~9冊 1冊450円 ・10~19冊 400円
- ・20~49冊 350円 ・50冊~ 300円

※注文は綴じ込みハガキ/FAXで受付中